

「いのち」のはたらき ～本当に大切なことって何だろう?～

仁愛女子短期大学 講師 香月 拓

◆講座要項掲載内容◆

みなさんは子どもが大好きで保育者になられたのだと思います。それでは「子どもたちのことが大切ですか?」「なぜ子どもたちは大切なのですか?」と質問されたら、みなさんはどのように答えますか?この質問は、子どもとの関わりにおいて非常に重要になるのではないのでしょうか。そこで今回は「保育者である自分」と「子ども」との関わりについて振り返る時間したいと思います。その中で「本当に大切なことって何だろう?」という問いに出あう場になればいいと思います。

◆開催期日◆



平成 23 年 10 月 1 日 (土) 13:30 ~ 15:00

◆開催内容◆

保育者を目指す原点には、「子どもが好き」ということがあると思います。そこから、「子どもたちのことが大切か?」「なぜ子どもたちは大切なのか?」と考えることも、子どもとの関わりにおいて非常に重要になってくるのではないかと思います。なぜなら、このことが、「こういうことを伝えたい」とか「こういう人間に育ってほしい」という保育者としての思いや願いの出発点になっていくからです。そして、そこから具体的な保育実践やカリキュラム・指導計画

などの展開になってくるのだと思います。このような保育のいとなみ・実践は、保護者・子ども・保育者の関係で成立しています。

保育者は普段、子どものことばかり考えたり、あるいは保護者を立てることばかり考えたりすると、自分自身を犠牲にしなければいけません。反対に、自分自身のことばかり考えていると、子どもや保護者を犠牲にしなければいけません。この関係性というのは非常に難しいものだと思います。

そこで当日は、以下の3つの問いを中心に展開していきました。

問1. 子どもたちにかかる願い「どんな人間に育ってほしい?」

どんな人間に育ってほしいのかという子どもたちにかかる願いを、果たして自分自身は実現できているのか(自分自身はそのような人間になっているのか)、ということを考えてもらいました。

問2. 虫は殺しても大丈夫?

子どもたちに「いのちは大切になって言ってるけど、ゴキブリは殺してもいいの?」と聞かれたら…ということを考えてもらいました。そこから、私たち大人が見失ってしまった、子どもたちと生き物との豊かな関係性を見ていきました。

問3. ちゃんと給食費を払っているのに、合掌して「いただきます」「ごちそうさま」って何故するの?

「いただきます」や「ごちそうさま」を言わない家庭が増えてきていますが、この言葉は言わなくてもいい言葉なのでしょうか。もし、言うべき言葉であるのならそれはなぜでしょうか。その時に合掌するのは

どうしてでしょうか。それらの意味を考えていきました。

以上、3つの問いには正解などないように思います。また、今回参加された保育士の先生は、このようなことを普段考えることはあまりないとおっしゃっていました。つまり、問2のようなことを子どもから聞かれることも、問3のようなことを保護者から言われることも、実際にはあまりないと思われます。それくらい私たちの中ではあたりまえになっているのです。しかし、そのあたりまえにしていることの中に、大切なことがあるのではないかと思います。これらの問いを出しました。そして、保育者として新たに何かを得るためではなく、「保育者である自分」と「子ども」との関わりについて振り返る時間にしたかったと思います。「いのち」という大きなテーマではありましたが、その中で「本当に大切なことって何だろう？」という問いに出あう場になってほしいという目的で行いました。

あたりまえのことですが、保育者が保育するもので、子どもたちが保育されるものとして考えられています。確かに役割としてはそうかもしれませんが、それだけではないようにも思います。役割の違いはあっても、「本当に大切なことを求める」、「いのち」について考える、という点では、保育者も子どもたちも保護者も同じ立場、ともに育ちあう横の関係なのではない

でしょうか。これが抜けてしまうと、どちらが優位に立つとか、一方的に「してあげる」という教育、などという縦の関係になってしまうのではないのでしょうか。考えるまでもないことですが、「子ども」がいるから保育者の役割がいただけるのです。ともに相手がいって成り立つのですから、どちらかが優位に立つわけではありません。子どもがいてこそ保育者としての育ちがあり、子どもは保育者がいてこそ、一人ひとりの育ちがあるのです。

参加された保育士の先生からは、「普段考えないようなことを考えることで、いろいろ気付くことがあった」、「子どもから学ぶこともたくさんあるということを、改めて考えることができた」などというような意見をいただきました。

今回のワークショップは、もともと参加希望者が多くはなく、さらに当日の欠席者もいたことで、極めて少人数での開催となりました。しかしその分、「保育者である自分」と「子ども」との関わりについて、日々の保育実践を振り返りながら、意見を交換することができたのではないかと思います。今後は、座談会のような形式にしたり、もっと身近にある具体的な事例などを取り上げたりするなど、より多くの方が参加したいと思えるような講座にしていく必要があると思います。